

白と黒の競演

上 袋田の滝 (茨城県大子町)



ほりうち・ようすけ 1954年
松山市生まれ。中央大卒。82年、
中日新聞社（東京新聞）入社。
「富士異彩」と「渡良瀬有情」
取材班で新聞協会賞を受賞。本
紙に写真企画「探鳥」を連載し
て21年目に。著書は「再生の原
風景」（東京新聞出版部）など。

厳しい寒さが続き、自然が氷の芸術を創造した。茨城県大子町の袋田の滝。一月二十七日朝、流れ落ちる滝が凍ってしまう「氷瀑」と呼ばれる神秘的な光景に出合った。完全凍結ではなかったが、氷の間を少しだけ水が流れる様に趣がある。黒い岩肌と、真っ白な氷とのコントラストが美しい。

滝の高さは百二十以で、幅は七十三以。岩壁を四段に落下するため、「四度の滝」とも称される。一方で、平安時代末期の歌僧、西行法師が「この滝は四季に一度ずつ来てみなければ真の風趣は味わえない」と絶賛したから「四度の滝」という説もある。

水戸黄門として知られる水戸藩主の徳川光圀も訪れたと伝わり、華厳滝（栃木県日光市）、那智の滝（和歌山県那智勝浦町）とともに、一般に日本三名瀑の一つに数えられる。二年前、国の名勝に指定された。

さらに、NPO法人地域活性化支援センターによって「恋人の聖地」にも選定されている。二段目の滝の中央部の岩のくぼみがハート形に見えるのが、理由の一つだ。残念ながら岩は氷で隠されていた。その代わりか、目前の四段目に氷がハートのような模様を描いているのを見つけ、思わずにっこり。

今冬は五年ぶりの完全凍結も期待された。だが「一月二十五日から三日間、九割まで凍結した。二十八日夜八時ごろ、氷がものすごい音を立てて崩れた。二月の結氷は難しいだろう」（袋田観瀑施設管理事務所）という。ならば、次は新緑の春に訪れようか。「四度の滝」なのだから。

（堀内洋助）

寒さが演出する冬の「絶景」を、毎週木曜日に「探鳥」を連載する堀内カメラマンが撮影しました。三回にわたってお届けします。

